

令和4年度寿楽荘事業計画・収支予算(抜粋)

基本方針

施設に求められる介護サービスの質を担保するため、人員の増配置を現場からも望まれています。法人の安定運営を目指すうえで人件費率の抑制は不可欠となります。しかし賃金の抑制や人員の削減だけが対策ではなくサービス活動収益を増やすことも手段の一つであり、如何に年間利用者延べ人数および利用者一人当たりの単価を増やすかがカギです。それは稼働率の上昇と各種加算の算定といえます。具体的な数値目標としては、年間退所者数約50名及び定員割れ数約30名をあわせた約80名に対し、毎月7名の入所を確保することや、ICT機器の活用による骨折や誤嚥事故の予防で年間入院者数を10%削減することで稼働率に結びつけることを目指します。また、利用者一人当たりの単価増のため、令和3年4月に施行された科学的介護のADL維持加算に取組むべく体制の整備として、現場職員によるパーセルインデックス評価も行っています。この数値目標はオミクロン株の強力な感染力による高齢者施設のクラスターリスクも高め、エッセンシャルワーカーである施設職員の身体・精神両面の負担も高める諸刃の剣ともなりますが、前年度までに培ってきたゾーニングやPPE着脱訓練など感染症対策の経験を活かし、利用者にも職員にも安心と安定を提供できる運営を目指します。

重点目標

- (ア) 業務改善計画に基づく介護サービスの適正化に努めます。
- (イ) 感染症や災害への対応力強化
感染症・災害時対策として昨年度策定したBCPの定期的な見直しおよび委員会による訓練(シミュレーション)を計画します。
- (ウ) 職員の処遇向上のため、国の示す「コロナ克服・新時代の開拓のための経済対策」に基づき、施設職員の処遇改善を行うと同時に、施設の安定的運営を図るため給与規程の改正にも取り組みます。
- (エ) ICTを活用した研修への参加・受講により認知症対応や人権擁護、ADLの維持向上など職員の資質向上にも取り組みます。
- (オ) 自立支援・重度化防止の取組の推進
介護保険制度の目的に沿って、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を目指します。
- (カ) 介護人材の確保・介護現場の革新
若年層の雇用促進と再雇用制度の充実および外国人人材の確保に努めます。
労働環境の整備として衛生委員会の機能を強化し労働状況の適正化に努めます。
- (キ) リスクマネジメントの強化
リスクマネジメント担当者の配置を努力義務期間内に整備し、施設内にある危険因子への対策を講じます。
- (ク) 創立時よりの理念(理想)、目標の周知と再認識
【愛情、人の和、信頼関係の中での慈悲を理想に利用者自身が主体となって生活をエンジョイできる施設を目指していきます。】これら理念と目標の周知・再認識に努めます。
- (ケ) 前年度の大幅な減収および今年度の減収見込みに応じた老朽化設備の更新と現場職員の負担軽減・業務省力化対策として見守り機器等の計画的な見直し・整備を図ります。

運営管理計画

1. 新規購入部門
引き続きコロナ禍からの厳しい財政状況の中で優先順を見極めながら、老朽化等により利用者生活へ支障をきたす恐れのあるものから設備更新を計画します。突発的な修繕にできる限り対応しながら、厨房機器等の更新を行っていきます。
感染症対策物品等の備蓄増強。
その他随時(必要な場合のみ)
2. 経費対策部門
暖房用燃料費、電力使用量の削減。
ゴミの削減、分別徹底等への取り組み。
3. 基本的管理部門(継続部門)
消防計画・震災計画・感染症等事業継続計画の周知徹底、防災機器の管理強化。
利用者預り金「保管・整理・取り扱い」の的確な把握。
【印鑑取扱者:小峰沙織、通帳取扱者:八木茜】
メンテナンス規程に従った取り扱い方法の厳格化。
諸規程の整備及び備品管理の徹底。
施設内外の清掃、除草、加湿器使用時の結露対応等の徹底。

詳細は事業計画書をご一読ください。

資金収支計算書(当初予算)	
勘定科目	寿楽荘会計
事業活動収入計	821,721,000
事業活動支出計	819,546,000
事業活動資金収支差額 (-)	2,175,000
施設整備等収入計	0
施設整備等支出計	7,382,000
施設整備等資金収支差額 (-)	-7,382,000
その他の活動による収入計	18,369,000
その他の活動による支出計	13,000,000
その他の活動資金収支差額 (-)	5,369,000
予備費支出	162,000
当期資金収支差額合計 (+ + -)	0
前期末支払資金残高	391,683,570
当期末支払資金残高 (+)	391,683,570